

帰国研修員便り

【帰国研修員の活動状況】



エドガーさん（ペルー帰国研修員）から
母国での活動報告が届きました。



1) コースリーダー： 城戸 浩三

2) 現地活動報告 : Mr. HUAYANAY E. Edgar Moises
(ペルー帰国研修員)

2017年9月25日

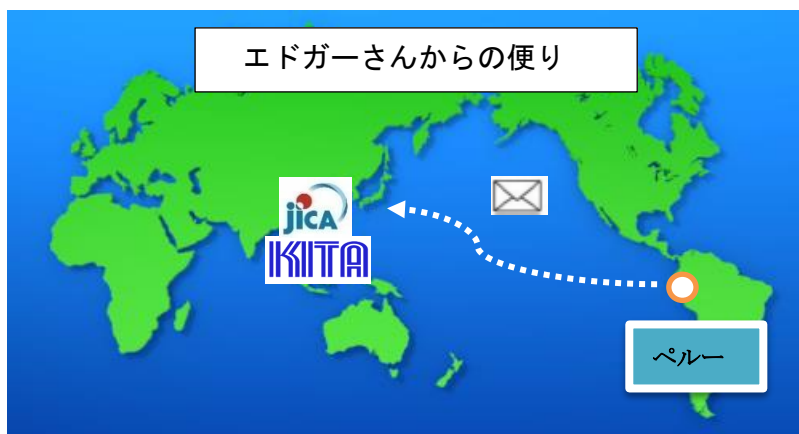
(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

JICA/KITA 技術研修に参加したエドガーさん（ペルー帰国研修員）から母国での活動状況が届きました。

今回ご紹介する帰国研修員便りは、2016 年度：「コンポスト事業運営(B)」コースに参加されたエドガーさんの活動報告です。技術研修コースを担当された城戸コースリーダーよりエドガーさんの現地活動についてコメントを頂きました。

1. 今回レポートした帰国研修員の紹介

名前 (通称)	写真	氏名	国名	受入れ研修期間
エドガーさん		Mr. HUAYANAY E. Edgar Moises	ペルー	2016/ 8/21～ 2016/9/22



ペルーの名所旧跡



ワスカラン国立公園



サン・フランシスコ教会

【研修訪問先で記念写真】



各国から派遣された研修員(10名)の皆さんは、北九州市（JICA九州）に集まり「コンポスト事業運営」について勉強しました。

【研修期間中の写真】



講義終了後の記念撮影 (JICA 九州)



コンポスト技術を実習中の研修員

2. 城戸コースリーダーよりメッセージ



JICA コンポスト事業運営 (B) は、中南米諸国の公務員を対象にしたコースです。このコースは、約1ヶ月の研修期間で行っています。平成29年度現在5回になりますが、ペルーのエドガーさんは昨年度4回の研修員です。このコースの案件目標は、日本での廃棄物行政やコンポストの概要、技術を実践習得し、またコンポストの応用性を理解することによって、それぞれの国に適したコンポスト改善のための計画を設定することです。

エドガーさんは、コンセプション市生態系公共サービス部の副部長です。コンセプション市は、都市部人口が14,131人、農村部人口が1,932人からなっています。家庭ごみは、分別収集が進んであり、排出量は0.3874Kg/1人/日です。帰国後の活動報告書を読むと、JICA 研修での経験を他市にも拡大して伝えており、また積極的に環境教育やコンポスト化を進めていることが理解できます。

このコースの第1回に参加したペルーの研修員で、バプア群庁公共サービス人材開発部長がいます。彼の話として、“廃棄物管理を積極的に行い、その褒美としてペルー政府から報奨金をもらった。それを用いて、より良い3Rやコンポスト化を推進している。”ことをエドガーに伝えましたが、それが刺激となり、頑張っているようです。またジョブレポートになくて、新たにアクションプランに採用した畜産廃棄物堆肥の技術導入について、大学と連携して実行しており、研修が役立った様子でコースリーダーとしては、うれしいことです。

私は昨年12月、このコースのフォローアップで3回と4回に研修を受けたコスタリカとエルサルバドルの5研修員を訪問しました。そのコンポスト化の成果は素晴らしく、すべての研修員が、高倉式コンポスト化方法を応用して、積極的にアクションプランを、実行中でした。コスタリカの研修員は、“この研修のほとんどが私の市でコピーできる”と話してくれました。

この中南米諸国を対象とした研修の有意義性を感じました。

3. エドガーさんからの便り

親愛なる城戸コースリーダーへ

教えていただいたすべてに心からの感謝を込めて、私のコンセプション市で展開している活動の進捗状況をご報告致します。高倉方式も実行し始めていて、これについては改めてレポートを送ります。ご確認をよろしくお願いします。

帰国後の活動報告



- ①研修員名： EDGAR MOISES HUAYANAY ESPINOZA
- ②国名： ペルー
- ③タイトル： 環境教育と有機肥料（コンポスト）の生産
ーコンセプション市でのコンポスター

環境教育と有機肥料開発（コンポスト）に関するアクションプランは、廃棄物の管理、3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を実施する際の考え方、分別の強化を改善するための代替モデルになると思います。また、家庭の無機・有機ごみの中の廃棄物の分別とコンセプション市庁の公共清掃部門とリサイクル協会の分別収集の最適化のためのオプションになると考えます。

コンセプション市の環境推進部門を始め、教育機関、市民団体、販売業者、教会、一般市民など、市民社会がこの計画の実施に積極的に参加しており、また順次環境教育を展開することで分別収集も進み、計画を推進しているメンバーにフィードバックされ、評価を行っております。

市の公園や庭園の土壌を肥やすため、また痩せたまま放置されている市周辺の森林地帯を肥沃な土地に置き換えるため、コンポストを生産しています。コンセプション市での環境教育を継続し、コンポストの質を改善するため、畜産廃棄物を加えて生産していますが、これは国立ペルー中央大学がコンポストの組成分析を行ってくれたおかげで可能になりました。

日本 JICA での経験はマタウアシ市役所とチャンバラ市役所、教育センター、市の生態学分野の職員にも伝えています。うれしいことに、コンセプション市の商工会議所の雑誌に「ともに新しい課題に立ち向かうために」という記事が掲載されました。この記事は JICA の経験を生かして、「有機廃棄物のコンポスト化によるごみの削減」を呼びかけています。

サンタクルーズ山環境保護生態センターでは、コンポストを適切に管理するため、コンポスト生産エリアの整備を進めています。アボカドの種のような有機残留物が残らないように、廃棄物を細かくするための粉碎機を探していますが、現在までそのような機械が見つからず、まだ結果につながっておりません。

コンポストの生産を補完するために、処理工場に野菜栽培用の農園を併設して、非常に良い結果を出しています。城戸さんが、研修仲間の一人が廃棄物処理分野において報奨金を授与したことを教えてくださいました。我々も有機・無機廃棄物を収集するためのコンテナも指定収集場所に設置していて、もっと結果を出し、良い報告ができると確信しています。

親愛なる JICA の皆様、ペルーのコンセプション市を訪問して、私たちが展開して実行してきたことを評価して頂きたいぐらいです。皆様の支援のおかげで、我々の県は、持続可能な地域環境管理と廃棄物処理を初めて行った地域です。これからより大きな発展を達成できると思います。



コンセプション市チャンパラ地区で行った日本研修の報告会



コンセプション商工会議所の雑誌に掲載された記事
「有機廃棄物のコンポスト化によるごみの削減ー日本 JICA での経験」



適切なコンポスト管理、コンポジットおよびコンポスト保管の改善



有機廃棄物用の噴霧装置を設置したが、アボカドの種のような非常に硬い残留物のせいで、結果を出せなかったもので満足していない。



畜産廃棄物の微生物を増やすため、国立ペルー中央大学の支援で行ったコンポストの分析



サンタクルーズ山環境保護生態センターで生産したコンポストで栽培されている野菜

クリックしてレポートを
ご一読下さい。(英語版)



以上